

高等学校家庭科の課題をふまえた福祉を 主軸とする教材開発と指導に関する研究

～カリキュラムと内容研究を手掛かりに～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース

造形・創造科学系（家庭）

武 文子

戦後に設置された家庭科は、高度経済成長の時期から40年間、高等学校で女子のみ必修であった。その後生活者育成として始まった男女共修の高校家庭科は社会の一員の自覚を持ち始める高校生の発達段階には不十分であり、単位数の減少と共に内容が浅くなり学びの質量ともに低下した。その間消費経済や少子高齢化が進み、生活において安全性・持続可能性の問題や社会的孤立などの不安が生じてきた。幸福な生活のための家庭科の本来の学びの提供が困難となっている。

この問題を解決するために福祉を主軸とした課題解決型の発展学習を構想した。各単元をつなぐ総合的で、主体的に学べる教材として「公園のデザイン」を開発し実践した。限られた時間数の中でもレポートや振り返り記述から福祉・社会の一員としての認識の形成と総合的・主体的学びが確認できた。家庭科の本質的学びを進めるためにこの方向性を持ちつつ、応用・発展・充実が有効と考えられる。